

巡回支援つうしん春号

令和8年3月発行

まもなく新年度が始まりますね。施設では、こどもたちがこの1年で大きく成長し、元気に毎日を過ごしていることと思います。また新たなこどもたちや保護者との出会いの季節ですね。

新年度も引き続き、こどもたちの健やかな育ちを支えるため、保育に生かせる情報をお届けします。

保育インフォメーション

施設内や施設外での保育活動の中で「ヒヤリ」としたこと「ハッ」としたことを記録し、職員間で改善策の共有をすることは保育の質の向上や事故防止につながります。巡回支援員の助言例や巡回支援を行った施設の取組事例を紹介します。

★事例と助言例★

●例えば「近所で工事が始まりそう」「施設内で洗い場のところが滑りやすそう」などその日のうちに職員みんなが共有しておいたほうが良いことがあります。共有した記録を毎日みんなが見られるようにしましょう。



●巡回支援の際に聞かれる相談に、こどもの噛みつきがあります。例えば、噛みつきが繰り返される場合、保育者の中で担当者を決めるのも対応の1つにあります。こどもと保育者の間に信頼関係が生まれ、こどものちょっとした変化に気付けるようになるのではないのでしょうか。噛みつきはこどもの発達過程の一部でもあります。神経質にならず、環境を変えてクールダウンさせる、目先を変えるなどの工夫をしてみましょう。

★ワンポイントアドバイス★

○ヒヤリハットが起きた時間、年齢、場所に分けて内容を精査することにより、成長過程で出てくるものなのか、環境的なものなのか分析に役立ち、より良い保育を考えることにつながります。(A巡回支援員)

○OKYT (危険・予知・トレーニング) の意識を高め、ヒヤリハットの気付きにつなげられるよう、施設内外のリスクマネジメントを職員で話し合うのも効果あります。(B巡回支援員)

○ヒヤリハットをマイナスのイメージで捉えないでほしい。個人を責めるのではなく「気付きを出し合うことが施設全体の安全につながる」という前向きな雰囲気を作ることが大切です。(C巡回支援員)

○不適切な言葉がけとして、言葉のヒヤリハットを共有するのも一案です。(D巡回支援員)



★ヒヤリハットの取り組み紹介★

「シール方式」を採用し、情報共有できるメリットを生かしているA保育園の取組事例を紹介します。

- ①保育施設の平面図「ヒヤリハットマップ」(A3)を壁に貼っています。
- ②ヒヤリハット事案が発生する度に「ヒヤリハット種類別色シール」「時間帯(午前・午後)別シール」を発生場所に貼り、日付をメモしています。
- ③会議やミーティングで情報共有を図り、各月のデータはスケッチブックに綴じて記録簿としています。

内容別、時間帯別、場所別の統計分析にも使え、自園の傾向が見えてきます。

“職員が見えやすい場所に掲示することで、情報共有が促進され、お互いの考え方や見方を共有できる手段として有効に感じた”と巡回支援員より報告がありました。



《種類別シール表》(注1)

ヒヤリハット	午前	午後
単独 衝突・転倒・転落・指詰め	●	●
第三者 衝突・転倒・転落・指詰め	●	●
誤嚥(食べ物以外の物を口に入れる・噛む)	●	●
自傷(自分の手を噛むなど)	●	●
他傷(故意に、噛む・ひっかく・叩く・押す・つねる・乗る・蹴る)	●	●
体調不良(虫さされ・あせも含む)	●	●
危険行為(ピアノの棚にぶら下がる・机の上に乗る・物を投げるなど)	●	●
見失い・閉じ込め	●	●
食事トラブル(配膳ミス、未食確認不足)	●	●
その他	☆	☆

(注1) ヒヤリハットの項目は「～しそうになった」を省略したもので、事故発生前のものです。

巡回支援トピックス

巡回支援を行った施設で、安全に配慮されていると感じた取組事例を紹介します。

B保育園の取り組み「手作り靴箱」

緊急時、裏の非常口に靴を運ぶために作成された靴箱です。半分に折れて画板のようにそのまま持ち運べる工夫がされています。

登園で履いてきた靴をそのまま避難靴として使用することができ、壁に掛けることで収納スペースも確保できます。

履きなれた靴であれば、サイズが合わないという心配もないですね。こどもも違和感なく使用することができ、緊急時だからこそ安心感を持って避難できる工夫だと感じました。



折りたたんだ際、固定するためゴムを付けています



玄関に設置された靴箱

小さいサイズ用(底あり)



牛乳パックを使っています

手作り靴箱



100円均一ショップで購入した撥水加工の壁紙シートを段ボールに貼っています



保育のアイデアBOX

日々の保育に役立つ”ちょこっとアイデア”

皆さんの施設では、保育室内の環境構成についてどのような工夫をされていますか。企業主導型保育施設では、限られた敷地面積の施設が少なくありません。巡回支援を行った施設での工夫をご紹介します。

今回ご紹介するC保育園も限られた敷地面積の中で保育をしています。物的環境の工夫が様々な箇所で見られました。

ポイント①

人形の収納場所にままごとコーナーを有効活用

顔をきれいに拭いてあげ、布団をかけて寝かせています。こどもが優しく赤ちゃんのお世話をしています。



すぐに手が届く場所に置き、いつでも遊べるようにしています。こどもたちも出しやすく仕舞いやすいです。



自分より小さな子のお世話をする疑似体験の中で思いやりが育つことをねらいとしています。

ままごとコーナーを有効活用してきれいに玩具を収納しています。

ポイント②

絵本はくくりつけ棚を壁に設置して並べています

衝立(ついたて)と椅子を設置し、周りも静的活動コーナーにすることで落ち着ける環境を設定しています。



毎月、時季に応じた内容の絵本に入れ替えています。こどもの興味に合わせて入れ替えることもあります。



公益財団法人 児童育成協会 子ども相談支援部 巡回支援課 TEL : 0570-550-819 (5をプッシュ)

令和7年度より「巡回指導」から「巡回支援」に事業名が変更となったため、「巡回指導つうしん」から「巡回支援つうしん」に名称を変更しております。(2026 春号 VOL.9)